

2019年度短期海外留学プログラム

日本人学生の国際化を促進するために、高等教育研究センターでは毎年夏期・春期の長期休業期間中に10日から1ヶ月の海外留学プログラムを実施しています。留学先は、オーストラリア、ニュージーランド、アメリカ、カナダなどの英語圏に加え、中国、韓国、マレーシア、ベトナムなどのアジア圏も対象となっており、外国語学習や現地の学生・市民との交流を通じた異文化体験に大きな効果を上げています。

今年度は、夏休み期間中に留学ファースト・ステップとして、マレーシアマラッカ技術大学(マレーシア)に72名の学生が留学しました。春休み期間中には、新しく国家土木大・ベトナム国家大学(ベトナム)への留学も予定しています。

2019年度短期海外留学プログラム 実施報告・予定

夏休み短期海外留学先	派遣期間	人数	春休み短期海外留学先	派遣期間	人数
マレーシアマラッカ技術大学 (マレーシア)	8月24日～9月2日	72	オークランド大学(ニュージーランド)	2月15日～3月14日	14
モナシュ大学(オーストラリア)	8月20日～9月22日	9	国家土木大・ベトナム国家大学 (ベトナム)	2月19日～2月27日	5
南イリノイ大学(アメリカ)	8月22日～9月22日	3	クイーンズ大学(カナダ)	2月15日～3月15日	5
クイーンズ大学(カナダ)	8月8日～9月1日	2	南イリノイ大学(アメリカ)	2月8日～3月9日	2
慶北大学(韓国)	8月11日～8月24日	2	Global English Centre(マレーシア)	2月9日～2月23日	1
合 計		88		3月8日～3月22日	1
			合 計		28

マレーシアマラッカ技術大学 (マレーシア)

生物資源産業学部 N. M.

初めての海外だったので行く前はとても不安でしたが、徳島大学で事前研修してくださったおかげで十分に準備して臨めました。

マレーシアでの授業は楽しく遊びながら参加できる内容で、英語を使ったコミュニケーションに慣れることができました。

現地の生活を体験し歴史的な建物を見学した他、ショッピングやお祭り、観光スポットにも行きました。

たった10日間でしたが、語り尽くせないほどの経験ができました。このような機会を与えていただき本当に感謝しています。迷っている方には、ぜひおすすめしたいプログラムです。



南イリノイ大学 (アメリカ合衆国)

医学部 野村 侑香

今回の留学を通して、日本では経験することができないような貴重な時間を過ごすことができました。素敵なまちと素敵な人にお世話になり、本当に忘れることのできない留学となった。楽しいことも数多く経験したが、中でも特に印象に残っているのは、アメリカンフットボールの試合観戦とシカゴへの旅行である。私はアメリカンフットボールにとっても興味があつたので、試合観戦ができて本当に幸せだった。大学チームを応援したのだが、観衆の多さやスタジアムの広さに圧倒された。シカゴ旅行では、さまざまなハプニングを経験したが、そのたびに臨機応変に対応する力も身についた。ウィリスタワーの地上103階からの景色、シカゴ名物のシカゴビザ、2階建てバスでシカゴを巡るなど、大都会シカゴを大満喫した。さらに、寮での生活も本当に楽しかった。最初は英語で会話することが難しいと感じたときもあったが、英語を話す機会が多かったおかげで、英語でコミュニケーションをとることの楽しさを実感した。反省したい点は、他国からの留学生との英語で会話するときにアクセントの違いで苦戦したことである。もっともっと私のスピーキング力やリスニング力を向上させたい、というさらなる目標ができた。今回の留学で学んだことをしっかりと活かしていきたいと考えている。自ら国際交流ができる機会があれば積極的に参加したい。また、引き続き英語の学習も続けていきたい。



My kind teachers

慶北大学 (韓国)

総合科学部 山下 花音

今回の2週間の留学は毎日充実していて、とても楽しいものだった。毎日の授業は優しく面白い先生が分かりやすく丁寧に教えてくれたため、楽しく学ぶことができた。生活によく使う単語や文法を習ったので、実際に留学中に使えることもあった。文化体験で韓服を着たことや、テコンドー、路地ツアーを通して、韓国を身近に感じることもできた。帰るときにタクシーで空港まで行ったが、運転手の方が私たちが空港の中に入るまで見送ってくれて手を振ってくれたのが印象的だった。

パティの方々も優しく、常に私たちのことを気遣ってくれた。また、たくさん話ができてよかった。この留学を通して、今までなかなか会えなかった同じ趣味を持つ友達ができたり、大邱という街を知り、いろいろなおいしい食べ物を食べたりできた。今日本と韓国は緊張状態にあるが、実際には日本を友好的に考えている人もいることが実感できた。今回は2週間の留学だったが、次回はもっと長期間の留学に挑戦したいと思った。また、この韓国への留学で学んだことを、今後の進路にも生かしたいと思った。



韓服を着て

徳島大学

国際センターニュース

International Center News, Tokushima University

No. 34
2020.1

国際センター サマースクール「徳島であおう」2019

8月6日(火)から13日(火)まで、国際センターサマースクール「徳島であおう」2019を実施し、協定校からの留学生36名(中国 20名、台湾 4名、ベトナム 4名、インドネシア 8名)が参加し、徳島大学の紹介や研究室訪問、徳島文化の紹介・見学などを行いました。

プログラム初日の8月7日(水)は、開講式、日本人学生とのキャンパスツアーを体験したのち、遍路を含む徳島文化の紹介、徳島邦楽集団・本学邦楽部による和楽器(琴、三味線、尺八)の演奏を聴き、一緒に体験しました。二日目には、徳島ビジネス学習として大塚製菓を訪問・見学し、午後には藍の館、渦の道、霊山寺を見学しました。三日目には、地域のボランティアによる茶道・書道など日本文化を体験しました。午後には総合科学部、理工学部、歯学部の研究室などを訪問し、最先端の研究に触れることができました。

最終の二日間は、徳島の豊かな自然を体験してもらうため、牟岐少年自然の家と「モラスコ牟岐」(世界から集めた2,000種類以上の貝殻を展示している資料館)にて徳島の自然について学びました。参加した学生からは「日本と徳島を知ることができた」、「また徳島に来て勉強したい」という声が聞かれました。



渦の道 見学集合写真

日本語研修コース

日本語研修初級コースは、留学生が基礎的な日本語を学び、大学生活で日本語が使えるようにすることを目的としており、週10～15コマの授業を前後期それぞれ16週間提供しています。

前期は、先端科学技術教育部、医科学教育部などで学ぶ学生(モンゴル 3名、ベトナム 1名、タイ 1名、アメリカ 1名)が参加し、日本語・日本文化について集中的に学びました。後期は、高等教育研究センターで学ぶ6名の学生(フィリピン 2名、ウガンダ 2名、ホンジュラス 1名、ジンバブエ 1名)に加え、先端科学技術教育部で学ぶモンゴル、インドネシアからの学生各1名、医科学教育部で学ぶエジプト人学生1名が参加しています。

また、渡日前入学許可制度で生物資源産業学部に入學予定の2名の学生に対し、後期に日本語研修上級コースを開講しています。



2019年前期 修了式



2019年後期 開講式

留学生のための就職支援セミナー

国際センターでは日本や徳島での就職を希望する留学生を支援するために、キャリア支援室と協力しながら「留学生のための就職支援セミナー」を開催しています。前期は合計6回のセミナーを開催し、エントリーシートの作成方法や面接への対応について取り上げました。最終的には、延べ37名の留学生が参加しました。

後期最初のセミナーとして、10月21日(月)には第7回目のセミナーを開催し、就職支援サイトの登録ならびに活用方法について学びました。今後は、より具体的な就職活動ができるように、エントリーシートの作成方法や面接の対応、就労ビザと就活のポイントについての説明、インターシップへの参加方法などに関するセミナーの開催を予定しています。また、ジェトロ徳島などの外部機関と協力をしながら、留学生に対する就職支援を進めていきます。



セミナーの様子

「留学生共同サポートセンターとくしま」開設！

7月10日(水)、本学国際センター内に「留学生共同サポートセンターとくしま」が開設されました。このセンターは徳島県が実施する「留学生県内定着促進事業」の一環として開設されたもので、徳島大学をはじめとする徳島県内の高等教育機関に在籍する外国人留学生の県内就職を支援することを目的としています。

今後は徳島県および県内各高等教育機関と協力し、外国人留学生の各種相談の受付、就職支援セミナーの実施などを行います。具体的な情報については、下記ホームページを参照してください。

「留学生共同サポートセンターとくしま」
https://www.isc.tokushima-u.ac.jp/tokushima_collaborative_support/



福井国際センター長(左)
仁木徳島県立総合高等学校本部長(右)

当日は、五月祭のにぎやかな雰囲気の中、9名の留学生と日本人学生3名を含む日本人9名が集まり、日本の書道を体験しました。「日本の書道は初めてでした。とても楽しかった」(留学生)などの感想がありました。